

## 揖斐農林事務所の普及活動状況 令和5年7月28日現在

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■茶 社会科学習支援 ～小学生による施設見学～

7月3日に、揖斐川町北方小学校3年生18名が社会科学習として、(農)桂茶生産組合の施設見学を行った。

被覆栽培茶園の摘採作業や、製茶ライン及び摘採機等の農機を見学した。初めて茶園を見学する児童が多く、防霜ファンなど特殊な機械への関心も高かった。

農業普及課からは、組合の説明とともに、事前に児童から寄せられた質問に対して資料に基づき回答し、見学会を支援した。

今後も引き続き、持続可能な茶生産を支援していく。



【見学の様子】

#### ■かき 第3回帰農塾の開催

7月8日に、JAいび川主催で第3回柿帰農塾が開催され、塾生6名が出席した。

農業普及課が、「効果の上がる病害虫防除」について講義を行い、大野町かき振興会技術部員が、研修柿園で摘果作業の実演を行った。塾生は柿の栽培管理について理解を深めた様子であった。

農業普及課では、引き続き柿産地の担い手育成支援を行っていく。



【摘果作業の実演の様子】

### ぎふ農畜水産物のブランド展開

#### ■米、麦、大豆 栽培研修会

大野町採種圃生産組合は、米(ハツシモ岐阜SL)8ha、小麦(イワイノダイチ)42ha、大豆(フクユタカ)32haで種子生産を行い、本県の採種事業を支えている。

7月14日に総会が行われ、優良種子生産のための事業報告と計画の承認がされた。総会後に行われた栽培研修会では、農業普及課から小麦の雑草対策等を振り返るとともに、現在栽培管理している米と大豆についての安定生産に向けた栽培管理のポイント等の確認を行った。



【研修会の様子】

#### ■夏秋なす 目揃え会の開催

今年度は定植後から好天に恵まれ、生育も順調に進んでおり順次収穫が始まっている。そこで、JAいび川夏秋なす部会では生産者の出荷物を統一し、高品質ななすを出荷するため、7月6日に池田地区で目揃え会を開催した。目揃え会は、全農や市場関係者から市場状況等の情報提供がされ、出荷者同士でしっかり出荷基準の確認を行った。

農業普及課からは収量増加に向け、梅雨から梅雨明け後の栽培管理ポイント等について情報提供を行い、本格的な夏秋なすの出荷がスタートした。



【目揃え会の様子】

## ■かき 柿の摘果状況確認

大野町かき振興会では、柿の適正な着果管理が行われているかを見回る「摘果確認」を毎年行っている。今年は7月15日に技術部員が9班に分かれ振興会員の全ほ場を巡回し、摘果状況、縮・間伐、剪定等の管理状況を確認した。その結果、8割程度のは場で適正に管理が行われているのが確認できた。残りの2割は今後指導を行うこととなった。

農業普及課は、各地区に分かれる前に技術部員に対して柿栽培管理における注意点や、病虫害防除に関する情報を提供して共有を図るとともに、巡回に同行して指導を行った。



【摘果状況確認の様子】

## ■加工業務用キャベツ 定植前研修会の開催

J Aいび川管内では、水田農業の担い手が水田を活用して加工業務用キャベツ生産に取り組んでいる。販売はJ A全農岐阜が主導し、J Aいび川が出荷する「契約出荷」を行っている。

7月27日に定植前の研修会を開催し、生産者15名が参加した。加工業務用キャベツは複数の品種を作付けすることで、出荷作業を分散しており、品種特性や適期定植など収量増加に向けたポイントを農業普及課、J Aいび川担当者が説明した。

今後は、時期ごとに農業普及課とJ Aいび川で協力しながら現地巡回し、生育量や病虫害発生状況を把握しながら出荷量増加に向けて関係機関と支援していく。



【研修会の様子】

## ■アスパラガス 夏芽病虫害研修会の開催

7月28日に、J Aいび川担い手サポートセンターにおいて、3年ぶりにアスパラガス研修会が開催され、生産者、関係機関ら9名が出席した。

農業普及課は、夏期の栽培管理、高温対策、病虫害対策について指導を行った。参加した生産者から「高温障害の影響」等について質問があり、参加者全員で日頃の管理について意見交換を行った。

今後も農業普及課では、揖斐アスパラガス部会の発展に向けた支援を行っていく。



【研修会の様子】

## 中山間地域を守り育てる対策

### ■徳山なんば 揖斐特別支援学校から苗納品

7月5日に揖斐特別支援学校で、生徒らが育てた徳山なんばの苗を生産者に渡す納品式が行われ、約800株の苗が徳山なんば振興協議会に手渡された。

「私たちが育てた苗で美味しいとうがらしを作ってください」と生徒代表からお願いされた協議会長は、「苗づくりは非常に大変だったと思う。しっかり育てるので機会があれば様子を見に来て」と応じていた。

今回の苗は、既に定植されている苗と併せて栽培し、生育比較を行いながら、次年度の苗生産につなげていく。



【苗を受け取る会長】